

株式会社 I.S.A

代表取締役 小原敏道
〒951-8113
新潟県新潟市中央区寄居町332-18 新潟シティビル
REAL4 2012年9月導入



“CAD屋たるもの先頭切って”いち早くREAL4のエキスパートに!!

S/Fシステムを駆使して業績拡大中!!

株式会社 I.S.Aは、鉄骨製作の施工図・加工図作成、積算などを専門とする会社。

REAL4をリリース間もない時期に導入。

「他社よりいち早く導入し、エキスパートに!」と積極的に駆使し、人員も増員し、着実に業績を伸ばしています。

同社の大橋宏幸常務取締役に、ドッドウエル ビー・エム・エスの本田浩樹新潟支店長、

データロジックの藤田茂明部長(DL)と共にお話をうかがいました。

御社は図面・現寸を受託しておられる会社ですね?

大橋常務: 当社は、現寸を小原社長が個人で請け負って自宅でやるようになったのが始まりです。間もなく、私も合流。個人商店でスタートし、2001年春に有限会社、半年後の11月に株式会社に。その後、おかげさまで着実に業績が伸び、今年で18期。現在、社員は15人です。

どんな仕事が多いのですか?

大橋常務: 最初のころはドラッグストアやスーパーマーケットなど、商業施設の仕事が多かったですね。当社が受けられる体制が整っていったこともあり、次第に大きな仕事を

任せていただけるようになりました。近年はロジスティクス関係のプロジェクトや、ホテルなど。何千トン、何万トンという長期スパンの大型物件の仕事をやらせていただいています。構造が複雑な病院の仕事もあります。

2012年にREAL4を導入。いち早い導入です。その理由は?

大橋常務: 山を切り崩したところに造るコンクリートの斜めの擁壁に、横打のアンカーを何百本もつけないといけないという、S/Fライナーではできない、しかも2万トンという大きな仕事が入ったことがきっかけでした。REAL4なら斜めに対応できる。S/Fシステムはライナーのころから

使っていてよく知っていました。ただしREAL4は当時まだできたばかり。でも、データロジックさんならいいものをつくらうと。そして使ってみて「REAL4、やっぱりいいねえ」となったわけです。

そのころはリリースされたばかりだったので大変でしたが、それでも“手”(汎用)で一つひとつやっていくよりは断然いい。データロジックさんには当時いろいろと要望を言いましたが、応えていただき、私たちも絶対に使いこなしてやろうと、積極的に、意地になって使ってきました(笑)。

DL: おかげさまで今、REAL4が全国に普及しています。

本田支店長: 小原社長も、常務も、自らREAL4を使いこなしておられ、そういえば小原社長から「自分たちは鉄工所さんより先にCADの内容をしっかり理解し、使いこなさないといけない」といった言葉をよくお聞きしてきました。

大橋常務: その通りです。「CAD屋たるもの、先頭切って使わなきゃダメだ。よそよりも早く導入し、しかも、よそよりも使いこなしてエキスパートになろう」と。それは今も当社の信念です。

REAL4の魅力は?

大橋常務: まず、やはりリアルタイム3Dがいいですね。建物についてよく分からない若い人たちにも、REAL4なら、視覚的に建物を理解しながら入力していくことができます。特に、当社はファブさんと異なり、工場がないので、社員たちは実物を見ること、触ることができません。人材を育てる上で3Dがあるのはとても大きいです。

若手スタッフを育てるために他に工夫していることがありますか?

大橋常務: 入社して最初は、加工図を汎用で修正することから覚えてもらっています。REAL4で3Dも見せながら。それから自分たちで加工図を出す。型紙をとらせる。そして最終的に入力。そういう順でステップアップさせています。最初から入力を教えるとなると、教える人間がつきっきりで必要になる。データも見直さないといけない。そこで、この順で仕事を覚えてもらうようにしています。

また、機会があればできる限り積極的に、現場の実物を見せに、当社の若い人たちを連れて行ってあげたいと思い、そのようにしています。実物を見に行くことで、そのサイズ感、質量感を実感してもらい、自分たちはそれほど大きな仕事をしているんだ、もし間違えたらどれだけ大変なのか



上: 物件3D / 下: 社内風景

を知ってもらい、一層の責任感を育めたらと思っているんです。

他にもREAL4のメリットはありますか?

大橋常務: 原寸検査で3D画面をお見せすると、設計者さんへの説得力が増し、理解していただくのに役立っています。特に商業施設はブレース構造で、ブレースがびっしり入るので、納まりを見てもらうのに役立っています。

また、REAL4の魅力はスピーディにできること。REAL4でできない仕事はできれば避けたいぐらいです(笑)。“手”を使って書くことが間違いのもとに一番やりやすいですから。今、工期が以前より非常に短くなり、変更も多く、「少しでも早く、早く」という状況。REAL4を駆使して、お客様の要望に応えようと頑張っています。また、それにできてきたからこそ、当社の今があると思っています。

REAL4の特殊部品の機能は使っておられますか?

大橋常務: 社員それぞれが使っています。ファスナー関係やデッキ受けなどに。作ってしまえば後が便利ですから。

ガイド図機能は使っておられますか?

大橋常務: チェックに便利ですね。私自身はPCが重くなるので、あまり使っていませんが、若い社員たちには、小さい物件のときに使うようにさせています。

今後への思いを。

大橋常務: REAL4を駆使して、引き渡しまでできるだけ早くをこれからもモットーに、また、人材を、じっくり、根気強く、育てていきたいと思っています。



左: 小原敏道社長 / 右: 大橋宏幸常務取締役